

令和4年度陸上競技大会におけるメディカルチェックの報告

・実施：令和4年7月8日(金)～10日(日) 第77回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会(むつ市)

<目的>

平成27年より県内の陸上競技大会(主に高校生が中心)において、疲労骨折の発生状況やスポーツ貧血、女性アスリートの3主徴などを中心に、その発生状況の実態調査を施行している。本調査において、県内における陸上競技選手の競技力向上、傷害予防に役立つ情報が得られることが期待される。

<対象>

同競技大会に出場した選手のうち同意の得られたもの

男子81名(大学・一般8名、高校72名、中学1名)、女子59名(大学4名、高校53名、中学2名)

<調査項目>

- ① アンケート調査：身長、体重、疲労骨折の既往、月経周期・月経困難症(女子)、栄養摂取状況など
- ② 簡易貧血スクリーニング検査：Pronto-7(マシモ)
- ③ 体組成：TANITA

<結果抜粋>

① アンケート調査

- ・疲労骨折既往あり：男子17名21か所、女子10名12か所(2か所以上の既往6名)
部位は腰椎、下腿、足部に多く認め、陸上選手で特に疲労骨折の多いとされている部位。
- ・月経周期異常：稀発月経15名(25.4%)、続発性無月経1名(1.6%)
月経痛や過多月経など月経困難症や月経前症候群に対しても個別対応
⇒希望した選手も含め計6名に婦人科への紹介状を作成

② 貧血：男子Hb<14.0g/dl, 女子Hb<12.0g/dl

男子26名、女子7名

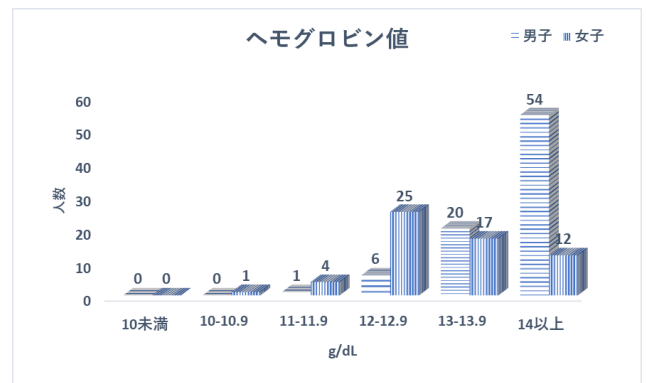
⇒整形外科医より医療機関への紹介状作成

③ 体組成：体脂肪(BMI)

男子：10.8±4.5% (20.5±3.2kg/m²)

女子：22.3±4.9% (20.8±2.1kg/m²)

BMI<17.5の女子選手が3名 *無月経や疲労骨折の原因ともなるため、適正な栄養摂取が重要



<令和4年度を振り返って>

- ・ COVID-19感染対策を行った上で、密を避けるために調査項目の規模縮小やメディカルチェックブースへの入室人数制限を行った。
- ・ COVID-19感染対策下ではあるものの、昨年から継続して検診の受診率が例年より低い傾向にある。学校ごとに受診率に差がある状態である。

<今年度の予定>

- ・ 陸上競技大会前に参加校指導者への検診案内をする。検診当日の混雑回避のため、事前のアンケート作成や検診同意書署名を依頼する。
- ・ COVID-19感染状況も踏まえて、身体診察によるタイトネス評価や骨密度測定再開を検討する。

(文責 藤田有紀)